

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	4	地域資源を活かした「魅力あるしま」をつくる	
具体的な施策	(1)	戦略的かつ効果的な企業誘致の推進	
	1	魅力ある誘致推進の展開	
事業名	遊休施設活用事業（遊休町有財産売払い促進事業）		
担当課名	財産管理課	所属長名	初田 正信
関係課名	総合政策課		
事業の目的	町有財産における更なる有効活用と遊休・未利用財産の売却促進及び利活用の具体化を図る。また、公売及び貸付等により積極的に処分することで、維持経費が削減されるとともに自主財源の確保が可能となるように売払い促進を図る。		
事業の内容	町のホームページへの掲載及び全世帯へのチラシ回覧により遊休・未利用財産の有効活用について周知を行う。また、島外からの企業誘致等に対し、誘致活動及び現地視察のための担当者招聘を行うとともに、税制上の支援措置などの優遇措置を拡充を検討する。		
事業の実績・取組状況	平成27年度中に5月と11月の2回、町のホームページへの掲載及び全世帯へのチラシ回覧を実施して周知を行った。		
成果（できたこと）	売払い実績は、分譲地が、1区画4,410,000円（平成26年度0区画）、遊休地等が5件25,607,614円（平成26年度5件13,220,686円）であった。回覧等の周知により、前年度よりも売払い件数が増加した。		
課題（できなかったこと）	分譲地については、販売が進まない状況が続いている現状である。固定資産評価額と比較して分譲地の単価見直しが必要である。		
担当課評価	B	町のホームページや住民回覧を利用するとともに、分譲地に、引き続き看板を設置し、常に住民の目に触れるようにしている。また、遊休地については、日頃から草刈等を行い売払い及び賃貸できるよう良好な状態に努めている。	
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	分譲地販売促進については、平成29年4月1日に分譲単価改定を実施する予定である。また、公共施設等総合管理計画策定事業の結果により、企業誘致等で紹介可能な物件の検討を行う。		
委員評価	B	2次評価のとおり	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	4	地域資源を活かした「魅力あるしま」をつくる	
具体的な施策	(1)	戦略的かつ効果的な企業誘致の推進	
	1	魅力ある誘致推進の展開	
事業名	創業支援奨励事業【新規】〈しごと再掲〉		
担当課名	総合政策課	所属長名	小柳 哲也
関係課名	※H28より観光商工課		
事業の目的	雇用機会が特に不足している本町においては、新たな企業が立ち上がることは、雇用の場の創出でもあり、新たな雇用につながる。 創業時の初期投資や人材研修は、事業発展に大きく影響することから、新たに支援制度を制定し、平成27年度から、その初期投資費用などの一部を支援し、より多くの雇用につなげたい。		
事業の内容	申請年度内に新規雇用又は雇用創出が見込まれる新規創業等を行う者に対し、①初期投資費用等の一部、②新規雇用奨励金、③創業時人材育成費用の一部、④特産品開発費用の一部を支援する。		
事業の実績・取組状況	IT関連企業であるAOSA株式会社（東京本社）の100%出資による株式会社D-projectが町内で創業するにあたり、初期投資費用の一部として3,000千円を支援した。		
成果（できたこと）	株式会社D-projectの創業により、30名（将来計画雇用数）の雇用の場の確保ができた。		
課題（できなかったこと）	H27年度中に20名の雇用を計画していたが、創業時期が年度末にずれ込んだため、4名でのスタートとなった。創業後1年以内に10名、2年以内に20名を目指す。		
担当課評価	B	支援制度を新設し、創業者の支援ができた。ただし、創業時期が年度末にずれ込んだことにより、創業時の雇用者数が予想を下回った。	
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	株式会社D-projectと連絡を密にして、人材の確保等に協力する。また、産業サポートセンターでの創業相談等により、支援対象者を把握し、創業時の負担を軽減することで、雇用の場の創出を進める。		
委員評価	B	戦略策定時の提案どおり、創業時の初期投資などを支援は、雇用の場の確保のためにも必要。今後も事業を継続すべき。（H28.07.21開催の新上五島町人口減少対策推進・検証会議で評価済み）	

A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。

B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。

C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。

D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。

E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	4	地域資源を活かした「魅力あるしま」をつくる	
具体的な施策	(1)	戦略的かつ効果的な企業誘致の推進	
	1	魅力ある誘致推進の展開	
事業名	専門学校（養成所）立地・誘致事業【新規】〈ひと再掲〉		
担当課名	総合政策課	所属長名	小柳哲也
関係課名			
事業の目的	専門学校等の誘致及び整備を促進し、若年層の人口増加を図り、活力ある地域づくりを図るため、町内への専門学校等の設置を推進する。		
事業の内容	町内に専門学校等を設置する学校法人等に対し、施設整備に必要な工事費、学校開設前の準備に要する経費を補助する。		
事業の実績・取組状況	新規事業のため、H27年度の取り組みは無し。		
成果（できたこと）	—		
課題（できなかったこと）	—		
担当課評価	—		
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	H28年度においては、県内離島の他市における福祉系専門学校設置の状況等について情報収集を行うなど、可能性を検討する。また、地方創生推進交付金の補助対象にならないことから、財源の確保についても検討する。		
委員評価	—	次年度以降に評価（主分野：ひと）	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	4	地域資源を活かした「魅力あるしま」をつくる	
具体的な施策	(1)	戦略的かつ効果的な企業誘致の推進	
	1	魅力ある誘致推進の展開	
事業名	企業誘致促進事業【新規】		
担当課名	総合政策課	所属長名	小柳哲也
関係課名			
事業の目的	産業の活性化及び就業機会の確保のため、企業誘致活動を展開する。		
事業の内容	町内に立地を希望する企業に対して、事業用地探しのサポートやマッチングなど、企業ニーズや企業進出動向を的確かつ迅速に把握し、これらを踏まえた効率的な企業誘致活動を展開する。		
事業の実績・取組状況	町内に立地を希望するIT関連企業のAOSA株式会社（東京本社）の事業用施設の紹介、県との立地協定締結の支援、町創業支援奨励事業補助金申請等の支援などを実施。		
成果（できたこと）	平成27年度中に開業までの準備を行い、平成28年4月1日に事業開始できた。当初雇用4名、1年以内に10名、2年以内に20名体制を目指す。30名（将来計画雇用数）の雇用の場の確保ができた。		
課題（できなかったこと）	当初雇用の人材確保が予定数よりも少なかった。		
担当課評価	C	秋ごろの事業開始に向けてサポートを行ったが、結果的に年度末まで開業準備を要し、社員募集の周知期間が短くなったこともあり、当初雇用人数が計画を下回った。	
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	企業側の必要に応じて、人材確保等に協力する。 本町に立地の可能性のある企業情報の収集など、他の企業の誘致活動を行う。		
委員評価	B	雇用創出者は少なかったものの、誘致企業数としては1件を確保できており、雇用創出者については、今後の動向を見守りながら判断する。	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。